

発達障害特性のある 児童・生徒への 通常学級における支援

—多様性と教育の個別最適化を目指した教育実践の提案—



日時：2023年**10**月**28**日（土） 13:30~16:30
場所：山梨大学 甲府西キャンパス N号館 N-11教室（対面開催）

基調講演講師：**松下浩之**（山梨大学教育学部准教授）

パネラー：**渡邊光太**（認定こども園聖愛幼稚園主幹教諭）
山口国之（北杜市立須玉小学校教諭）
森 秀昭（甲府市立北西中学校教諭）

司会：**奥村直史**（山梨大学教職大学院准教授）

お申込みは
こちらから



10月20日(金)までに
お申込みください。



山梨県内小学校教員、山梨県内の学校・教育行政関係者、山梨大学教職大学院の修了生、在学生、関係者及び本学域教員の皆様のご参加をお待ちしております。

発達障害特性のある児童・生徒への 通常学級における支援

—多様性と教育の個別最適化を目指した教育実践の提案—

近年、日本の教育界の重要なテーマとしてインクルーシブ教育があります。「子どもたちの多様性を尊重し、障害のあるなしなどにかかわらず、すべての子どもを包含する教育方法」を指し、障害のある子どももない子どもも、共に教育を受けることで、「共生社会」の実現を目指すことを目的としています。山梨県においても、インクルーシブ教育に力を入れる学校は多数あり、有効な教育実践も多数行われています。しかし、通常学級の中で障害のある子どもを含めて担任が実際の指導を行う際には多くの困難に直面しています。特に、2022年には小中学校の通常学級に在籍する発達障害の可能性のある児童・生徒が約 8.8 %という調査結果が文部科学省から出されており、発達障害のある子どもの支援について喫緊の課題であるといえます。

一方で、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して、というタイトルで出された中教審の答申においては、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿として個別最適な学びに焦点が当てられ、指導の個別化・学習の個性化の重要性がいわれています。つまり、インクルーシブ教育においても多様な支援ニーズを有する子ども達が集団の中で個性を発揮することが期待され、個別最適な学びの重要性が当然クローズアップされます。

このような状況の中で、通常学級の中に在籍する発達障害のある子どもについても、現実には教師が生活指導や学習指導をどのように行うかということは山梨県の教育現場でも重要な教育テーマであると思います。

そこで、今回の教育実践フォーラムでは、「発達障害特性のある児童・生徒への通常学級における支援—多様性と教育の個別最適化を目指した教育実践の提案—」というテーマの元、県内の多様な状況の障害を持ち、支援が必要な児童・生徒の指導について通常クラスの中で工夫をし、実際に有効な教育実践を行っている教員を招き、パネルディスカッションを行いたいと思います。ディスカッションの前にまずは、本テーマについて基調講演を山梨大学教育学部の松下浩之先生にお願いし、本テーマについての現状把握と課題対応に関するポイントを提示してもらいます。そしてディスカッション終了後には、本課題に対応するための実践のヒントを現場の先生方にたくさん持ち帰ってもらい、現状の整理と課題の克服につなげてもらいたいと思います。